



肛門外科開設のご案内

肛門外科 部長 柴北 宗顕
日本大腸肛門病学会専門医(肛門領域)



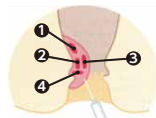
平成26年3月より新たに肛門外科の標榜を開始することとなりました。日本大腸肛門病学会が認定する肛門外科領域の専門医は、全国で300人程度、県単位では平均5～6人程度と少なく、その多数が診療所勤務の医師によって占められています。川崎病院肛門外科は肛門専門医の勤務する総合病院として、より幅広く専門的な診察を行いたいと考えています。肛門外科の標榜の開始とともに肛門疾患の診療を2人体制(柴北、殿元)とし、週3回(火、木、金)に専門外来の診察日を増やしました。今後、さらなる外来の拡張、充実を検討いたしております。当科で主に扱っている肛門疾患について、以下に治療方針をご説明致します。

内痔核

内痔核に対しては、排便コントロールや生活指導による保存的治療、坐剤等による薬物治療、注射で治療を行うALTA療法、以前からの標準治療である結紮切除術を行っています。ALTA療法は、ジオンという薬剤を痔核に注射し、痔核を硬化、縮小させる治療法です。術中術後の痛みが極めて少なく、脱肛等に即効性があり、かつ手術時間も10分程度と痔核手術のハードルを低くした画期的な治療法と言えます。日帰り手術を原則としておりますが、患者様の状態、希望によっては2泊3日の入院治療も受け付けております。ただし治療が必要な痔核患者様のうち2～3割の患者様はALTA療法のみでは治療が困難な場合があり、その際は従来からの標準治療である結紮切除術の併用をお勧めさせていただいております。

ALTA療法の治療の流れ

1つの痔核に対して4箇所薬液を分割して注射し、十分に浸透させます。複数の痔核がある場合にはそれぞれに対して同様に注射します。この投与法は、一般に「四段階注射法」と言われています。投与後、しばらくすると出血は止まり、脱出の程度も軽くなります。1週間から1ヶ月前後で投与された部分が小さくなり、脱出や肛門周囲の腫れもひいてきます。



れや出血、ときに痛みや違和感を訴えて来院されます。痔核が脱出するいわゆる脱肛とは異なり、脱出した状態を観察すれば、痔核による脱出か直腸脱かの判断は鑑別可能です。原則、入院による手術が必要となります。

便失禁

出産経験のある高齢の女性に多く、肛門をしめる括約筋の筋力が低下し、便漏れやガス漏れをおこす疾患です。便失禁は、患者様の苦痛も多く、非常に治療が困難な病気と言えます。当外来では、便失禁患者様に肛門括約筋の内圧を測定し、括約筋の力の低下を認めれば、専門の資格を持ったWOCナースと協力し必要に応じて骨盤底筋体操の指導、食事指導、薬物療法を行っています。完全に治癒することは困難かもしれませんが、少しでも良くなること、これ以上悪くならないことを目標に治療を行っています。平成26年4月より仙骨神経刺激療法(SNS)が保険適応となりましたが、現在のところ一般病院での施行にハードルがあり、施行に向けて調査中があります。便失禁はまだまだ発展途上の分野ですが、少しずつ治療の幅を増やしていきたいと考えています。

便秘

便秘には、大腸癌等が原因となる器質性便秘、高齢者に多い弛緩性便秘、直腸が原因の直腸性便秘、過敏性腸症候群と関連のある痙攣性便秘、また便秘をおこしやすい薬剤が原因となる薬剤性便秘などに分類されます。すでに多種類の便秘の薬剤を服用されている患者様が多く、治療に難渋するケースが多いですが、外来では生活習慣の改善、食事指導、薬剤による治療等を行っています。

その他の肛門疾患

外痔核の腫脹に対しては、薬物治療を原則としていますが、強い痛みを伴う血栓性外痔核に対しては、日帰り手術にて血栓を除去する治療を行うことがあります。肛門ポリープや肛門周囲の皮膚のたるみである肛門皮垂が気になる場合は、日帰り手術による治療を行っています。肛門から観察できる小さな直腸腫瘍に関しても、診断と治療目的にて切除を行っています。肛門に明らかな病変がなく、痛みや違和感を訴える病気に肛門の神経痛(陰部神経痛)がありますが、薬物治療等を行う場合があります。肛門の皮膚疾患に関しては、当院皮膚科や形成外科と協力して診断、治療を行っています。

裂肛

「切れ痔」と言われている痔で、多くの患者様は排便後の出血、痛みを訴えて来院されます。裂肛は肛門の狭い患者様に多く、軽傷の場合は排便コントロールと薬物療法の併用にて管理いたします。ただし状態がすすんでいる場合は肛門を広げる処置や手術を行います。

痔瘻

肛門周囲の痛みや腫れ(肛門周囲膿瘍)で発症することが多く、その際に切開して膿を出しておけば2～3割の患者様は痔瘻に進展することなく、そのまま経過観察できるとの報告があります。痔瘻の状態が確認されれば、手術が必要となります。比較的単純な痔瘻であれば、Seton法という痔瘻にゴムを入れる手術を行い、日帰り手術も可能です。ただし状態によっては、入院にて痔瘻を開放したり、くり抜いたりする手術も行っています。複雑痔瘻に関しては、当院においては原則入院にて治療を行っています。

直腸脱

直腸、肛門を支える筋肉の力が低下し、筋肉が直腸を支えきれずに直腸が脱出する病気です。高齢の方に多く、脱出の他に下着の汚

開放型病院共同指導料の施設基準を取得しました 副院長(地域医療連携担当) 藤川 正博

医療法人川崎病院は平成26年3月1日付けで近畿厚生局より開放型病院共同指導料に関する承認を得ました。開放型病床とは、かかりつけ医の先生と当院の医師が協力して、先生方が診ておられる患者さんに通院から入院、退院までの一貫した診療を受けていただくための病床です。現在、当院では5床の開放型病床を設けております。

開放型病床を利用してかかりつけ医と当院の主治医が共同で患者さんの診療にあたることで、かかりつけ医の先生は患者さんの入院中の診療状況が把握できるようになり、退院後の診察をスムーズに開始できます。また患者さんにとっては、普段から診察を行っている先生が入院中も継続して診察することで、入院中の不安の解消にも繋がります。(もちろん、入院だけで共同診療を行わなくても結構です)

当院の主治医と共同で患者さんの指導を行って頂いた際には、かかりつけ医は開放型病院共同指導料(I)(患者1人1日につき350点)の診療報酬も算定できます。患者さんの費用負担は若干増えますが、それ以上に患者さんが享受されるメリットは大きいと考えております。

開放型病床を利用して頂くことで、よりシームレスな地域完結型医療を確立でき、地域住民の健康に資することが可能になります。開放型病床の利用を希望される先生は、是非、地域医療連携室までご連絡頂きますようお願い致します。開放型病床について説明にお伺い致します。

当院では診療所の先生方と連携して地域医療を向上させていくことが自らの使命と考えております。開放型病床の設置はその一環であり、これからも地域の先生方と一緒に地域医療を支えて参りたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願ひ致します。

専門特殊外来担当医表

専門特殊外来は予約(または一般外来の受診)が必要です。

診療科	月	火	水	木	金	土(第2・4は休診)			
内科	午前	【糖尿病外来】 市原 紀久雄	【糖尿病外来】 大塚 章人	【脳神経外来】 篠山 隆司	【糖尿病外来】 大塚 章人	【神経内科外来】 本岡 里英子	【呼吸器外来】 畠山 由記久
	午後	【糖尿病外来】 久保 聡子	【腎臓外来】 粕本 博臣	【糖尿病連携併症外来】 村井 潤	【呼吸器外来】 徳永 俊太郎	【禁煙外来】 中村 正(1・3・5) 久保 聡子(2・4)	【腫瘍外来】 茶屋原 菜穂子	【血液外来】 飯田 正人
循環器科	午後	【ペースメーカー外来】 (第1、第3のみ)	
外科	午前	【直腸肛門外来】 柴北 宗顕 10:00~11:00	
	午後	【乳腺外来】 飯尾 淳 13:30~14:30	【直腸肛門外来】 柴北 宗顕 14:00~15:00	【乳腺外来】 殿元 康仁 13:30~14:30	【直腸肛門外来】 柴北 宗顕 14:00~15:30	
		【直腸肛門機能外来】 (第1、第3) 14:00~	
	【ストマ外来】 (第2、第4) 14:00~	
整形外科	午前	【スポーツ外来】 戸祭 正喜	
耳鼻咽喉科	午後	【補聴器外来】 要外来受診 (第1、第3、第5)	
形成外科	午前	
	午後	【リンパ浮腫外来】 要外来受診 八杉 悠	

その他、各診療科にて力を注いでいる疾患・治療

注) 学会など諸事情により代診、休診になる場合もあります。あらかじめご了承ください。

標榜科	専門	医師名および診療曜日	標榜科	専門	医師名および診療曜日
内科	糖尿病	市原 紀久雄(金曜 午前) 大塚 章人(月曜 午前)	消化器内科	悪性疾患(膵臓癌、胆管癌等)により 黄疸が出た時のステント減黄術	前田 哲男(月曜 午前/水曜 午前) 野村 祐介(火曜 午前/木曜 午前) 西田 悠(金曜 午前) 多田 秀敏(火曜 午前/金曜 午前) ※内科2診で診察
	肥満、高脂血症、痛風	中村 正(月曜 午前/水曜 午前)		消化器癌の早期発見と 内視鏡治療	
	血液	飯田 正人(月曜 午前/水曜 午前/木曜 午前)			
	腎臓	粕本 博臣(水曜 午前)、榎木 聡(月曜 午前)			
耳鼻咽喉科	睡眠時無呼吸症候群	下屋 聡子 (月、水、木、金、土 午前) 土曜日は第3・5のみ	循環器内科	冠動脈疾患	全医師が対応致します
	中耳炎		末梢動脈疾患		
	アレルギー性鼻炎		小児全般	戸祭 正喜 (月曜 午前/金曜 午前)	
	副鼻腔炎		手全般		
	扁桃炎		スポーツ障害全般		
	声帯ポリープ		眼科	涙道手術	松場 真弓(火・水・金 午前)
	突発性難聴		形成外科	歯科 口腔外科	感染症
顔面神経麻痺	腫瘍(悪性、良性)				
眼瞼下垂	顎骨骨折				
熱傷を含む外傷	インプラントおよび インプラントのための骨再生				
良性・悪性の皮膚腫瘍					
美容医療					
褥瘡					

ご予約は地域医療連携室まで電話またはFAXにてお申し込み下さい。

電話 078-511-3133 / FAX 078-511-3297